

令和4年度第2次補正
探究的学習関連サービス等利活用促進事業費補助金

探究的な学び支援 補助金2023

効果報告レポート

【事業者名】

Institution for a Global Society株式会社

【サービス名称】

社会実装シミュレーション型プログラム

【サービスの機能分類】

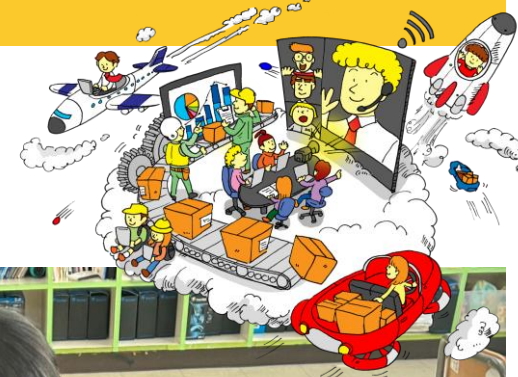
区分A-1 メインサービス

2024年1月

社会実装

シミュレーション型
プログラム

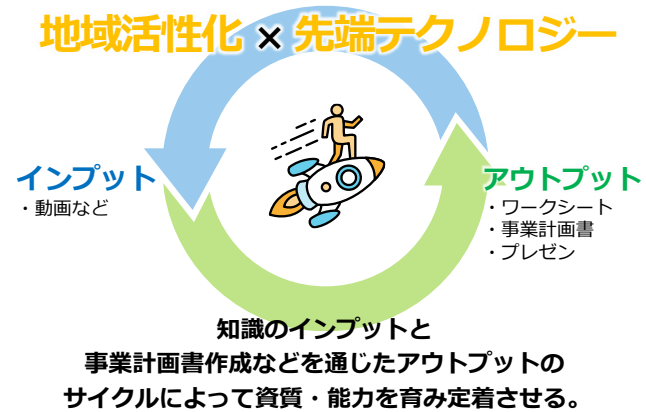
Inst.
Global
Society



■探究学習等サービスの概要



シミュレーション型教材である本探究プログラムは「地域活性化×最先端テクノロジー」をテーマにグループで会社をバーチャル起業。自動で課せられるインプットとアウトプットのサイクルを回す各種ワークによって、実社会で求められる視点と自ら課題を発見し、学び、考え、判断し、他者と協働して課題を解決するための資質・能力を負担なく高めます。



育成する視点	
実社会でこれから求められる	
<input checked="" type="checkbox"/> 0→1を生み出す	
<input checked="" type="checkbox"/> アイデアを形に実装するための視点	
育成する能力	
<input checked="" type="checkbox"/> 課題設定	<input checked="" type="checkbox"/> 批判的思考
<input checked="" type="checkbox"/> 表現力	<input checked="" type="checkbox"/> 創造力
<input checked="" type="checkbox"/> ITツールを使いこなす能力	<input checked="" type="checkbox"/> 協働性
	<input checked="" type="checkbox"/> 論理的思考
	<input checked="" type="checkbox"/> メタ認知

生徒が自走する探究学習プログラムにより、持続可能な探究を実現

コマ数に応じて提案されるプログラムを順番に進めるだけ。教材研究を含む授業準備の必要がなく、先生の探究指導スキルやリテラシーに左右されることなく高度な探究を実現します。



答えのない問いや課題に立ち向かえる力を、会社を作るストーリーを通して楽しく学べ、実社会でこれから求められる視点を養成。

事前準備の必要なく、生徒自身がインプット→アウトプットのサイクルを回せるコンテンツで先生は生徒の観察やサポートに注力可能。

事業計画書を提出すると企業価値チームランキングが発表されるなど、ゲーミフィケーション要素がより主体的な取り組みを後押し。

生徒の探究力の成長が見える化。探究の効果を高める評価基準の獲得により、負担なく「調べ学習」から真の「探究」へ

探究による資質・能力の成長を定量評価。探究レポートの作成支援とその評価の標準化も実現し、多くの学校・先生が抱える探究の「評価」に関わるあらゆる課題を解消します。

さらに……

先生の負担なく実施可能なプログラム

コマ数に応じて提案されるプログラムを順番に進めるだけ。教材研究を含む授業準備の必要はありません。

進行の仕掛けでワクワクを生むプログラム

事業計画書を提出すると自動的に企業価値を再計算。チームのランキングが発表されるなど、ゲーミフィケーション効果により、学習のモチベーションを高めます。

■探究学習等サービスの概要

状況に応じてサプリメントとしてスポットで活用



探究を通して身に付けさせるべき資質・能力を育むだけでなく、探究やPBL（課題解決型学習）に関わる課題に応じたフレームワークを身に付けさせることで、各活動の効果と価値を高めることが可能です。

探究の主な課題	解決方法	動画タイトル
社会や対象のニーズやインサイトを深掘りすることができない。	ニーズ理解の本質を学ぶ	デザインシンキング
グループでの議論が深化せず表面的なやり取りにとどまってしまう。	心理的安全性の確保	バイアス、ゲーム理論
情報の信頼性を判断できず、見つけたデータをそのままエビデンスにしてしまう。	情報判断の基準を習得	フェルミ推定、ディシジョンツリー

GROW Academy
 動画ラインナップ



▲「思考や議論が深まらない」「情報の真偽を判断できない」などの課題を解決する思考法を授業1コマから学べるコンピテンシー育成動画コンテンツ

「理数探究」に準拠したSTEAM教育コンテンツも利用可能

地域に貢献する会社を起業する STEAM 型のシミュレーション・コンテンツも利用可能。起業家に必要な知識をワークを通して学べ、答えのない問いを解決するために必要な資質・能力を習得することができます。

探究の成果を定量的に把握し探究を深めるアセスメント

探究アドバンス

探究で育む資質・能力とその成長の定量評価を実現する「探究力測定」の他、探究レポートの作成を通して探究の成果をアウトプットする力を育む「探究Navigator」もパッケージ。探究レポートの作成支援とその評価の標準化も実現し、多くの学校・先生が抱える探究の「評価」に関わるあらゆる課題を解消します。

探究力測定

AiGROW ⊕ 数理探究アセスメント

数理工学的なものの方、考え方を定量化する「数理探究アセスメント」と、多様な他者と協働し問題解決に向かう力を定量化する「Ai GROW」をパッケージ化した「探究力測定」で、探究に求められる「多角的に物事を捉え、数理工学的な考えと他教科の学びを組み合わせながら、多くの人と協働して新たな知や解を創造する力」を可視化。

探究Navigator

研究レポートの作成方法や評価ルーブリック、指導マニュアルなどをパッケージ化。レポートの第三者評価も実施し、探究のパフォーマンス評価を標準化。

多くの学校・先生方が抱える以下の悩み・課題を「社会実装シミュレーション型プログラム」によって解消する。



探究が表面的な
「調べ学習」にとどまり
精度を上げられない

目指す課題解決

生徒が「自走」できる持続可能な探究学習サービスにより、負担なく探究の高度化を実現。また、「思考が深まらない」「データの真偽を判断できない」といった探究における課題を解消することで、児童・生徒の資質・能力の成長を最大化する。



STEAM教育等で
学んだ知識を
社会で必要な能力として
落とし込めていない

目指す課題解決

地域活性化と先端テクノロジーをテーマに実社会で求められる視点を養成。実際のビジネス環境を想起させ、探究で得た知識や資質・能力を「課題設定→課題解決→アクション」のプロセスの中で定着させる。



探究型学習の
評価の負担が大きく
その評価基準も
定まっていない

目指す課題解決

専用のアセスメントにより、探究による生徒の資質・能力の成長を定量化。探究の振り返りや改善をエビデンス・ベースで図れるようにする。また、評価基準の提供は、探究活動中の声掛けの精度を上げるだけでなく「探究で何を意識すればよいのか」を生徒に理解させることにも貢献。探究の精度向上と資質・能力の成長加速に貢献する。

■ 探究的な学び支援補助金における活用場面

CASE1 鹿児島育英館高等学校



探究の高度化

社会に必要な能力

評価基準・負担

普通科コースの生徒に社会やビジネスを体験させる学びをどう提供できるか。アイデアだけでなくロジックを組み合わせた活動をさせたかった。

活用事例の概要

- **主な活用シーン**
総合的な探究の時間
ホームルーム
- **対象生徒**
1年生

- ・ 探究学習として週1時間、弊社の探究サービスを継続的に取り組み、2月には保護者も参加する成果発表会を予定。
- ・ 動画やワークシートだけでなく評価までもパッケージ化されていて、特別な準備もなく負担を感じなかった。
- ・ 授業では先生は「いち地域住民」として生徒に質問をしたり、生徒が思考するための対話をしたりしながら伴走。
- ・ 2年生から始まる個人探究を前に、クラスメートや周囲と協力し合うことの重要性を理解する貴重な経験ができた。
- ・ 「Ai GROW」のグルーピング機能でバランスの良いグループを編成。日頃の活動以上に積極性を見せた生徒もいた。



◀ プログラム実施中の様子。当初懸念した難易度は問題なく、分かりやすい学習動画で生徒自身で主体的に学習を進行



◀ 2月の父兄参加の発表会に向けたプレゼンの準備

■ 探究的な学び支援補助金における活用場面

CASE2 沼津市立沼津高等学校・中等部



探究の高度化

社会に必要な能力

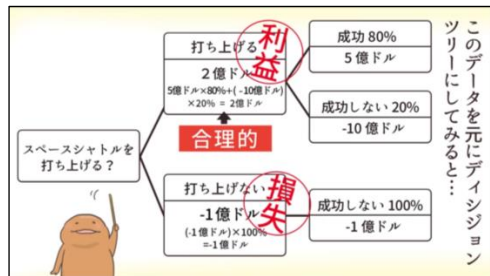
評価基準・負担

探究に必要なスキル面での課題。生徒の強み・課題を把握し、指導につなげたい。資質・能力の評価は共通言語化し、要録等の書類作成の負担軽減をしたい。

活用事例の概要

- **主な活用シーン**
総合的な探究の時間
自宅学習
キャリア教育
- **対象生徒**
中1～高3

- ・ 探究の授業で「システム思考」「デザインシンキング」「疑う力」を身に付ける動画コンテンツをスポットで活用。
- ・ 生徒からは探究の際に「疑う力が生きた」「情報を見る角度が増えた」などの声が挙がり、学びの効果を実感。
- ・ 2学期の目標設定に「Ai GROW」の結果を活用。自身の特性を客観的に把握でき、具体的な行動変容が起きた。
- ・ 「Ai GROW」で強みを具体的に理解できるようになり、高3は志望理由書、先生は調査書の作成に役立った。
- ・ 気質診断の結果が生徒のトラブルやメンタル面に対する理解の助けとなり、生徒に寄り添いやすくなった。



▲探究を深めるフレームワークをスポットで習得できる「GROW Academy」

◀「社会実装シミュレーション型プログラム」を使った授業の様子。その後、学習内容を探究の調査プランに反映

■ 探究的な学び支援補助金における活用場面

CASE3 市立函館高等学校



探究の高度化

社会に必要な能力

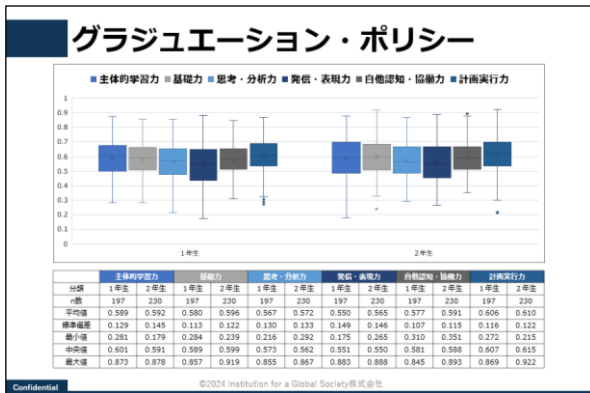
評価基準・負担

学校設定科目「函館学」の課題や強みを定量的に把握し、学校独自の地域探究プログラムの教育効果を高めながら育てたい資質・能力の成長を促したい。

- ・「Ai GROW」「数理探究アセスメント」の受検によってグラジュエーション・ポリシーの課題を定量的に把握。
- ・アセスメントの結果を基に地域探究プログラムの課題をコンピテンシー・ベースで整理し、改善に向けて協議。
- ・地域探究プログラムの意義とそこで育まれる資質・能力の重要性を理解を深めるための講演会を実施。
- ・地域探究プログラムの課題の解決に特に貢献するコンテンツを中心に探究サービスを活用し、地域探究を継続。
- ・ご当地グルメの歴史的背景を学び、新メニューを開発して販売会を実施するなど、アウトプットの機会も創出。

活用事例の概要

- **主な活用シーン**
学校設定科目
総合的な探究の時間
ホームルーム
- **対象生徒**
1～3年生



◀ スクールポリシー (= 地域探究で育みたい資質・能力) の成長を定量的に把握し、既存のプログラムの改善についても議論

■ 探究的な学び支援補助金における活用場面

CASE4 湘南学園高等学校



探究の高度化

社会に必要な能力

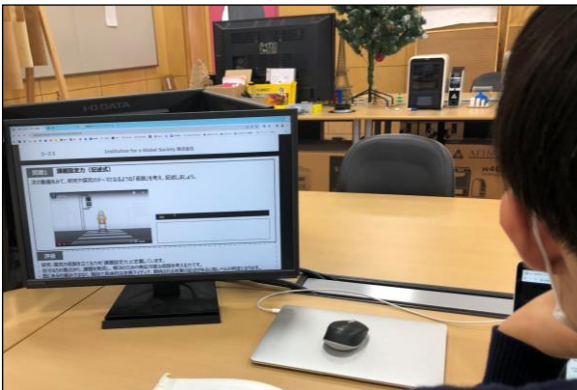
評価基準・負担

普段とは異なるテーマや課題に取り組ませることで、どんな変化が起きるか。成果や点数よりも、探究活動のアクセントになることを期待。

- ・ 後期最初の授業（10月）に受検させた「数理探究アセスメント」は、結果レポートを基に授業で振り返りを実施。
- ・ 計測した4つの能力のルーブリックが探究の評価基準となり、探究を進めるうえでの生徒との共通言語となった。
- ・ 改めて「仮説とは何か？」について問われると悩む生徒が多く、これまでの指導では気付かなかった課題を発見。
- ・ クラスごとの特徴がアセスメントで明らかになり、そのデータを生徒個人にまで解像度を上げることができた。
- ・ 「探究力」を他校と横比較できるデータの獲得によって、確立したプログラムの改善を具体的に検討できるように。

活用事例の概要

- **主な活用シーン**
総合的な探究の時間
情報の授業
- **対象生徒**
1～3年生



◀ アセスメントの受検とその振り返りの様子。生徒は受検結果を基にときには友人と会話をしながら自身の成長について理解を深化

■ 探究的な学び支援補助金における活用場面

CASE5 延岡学園高等学校



探究の高度化

社会に必要な能力

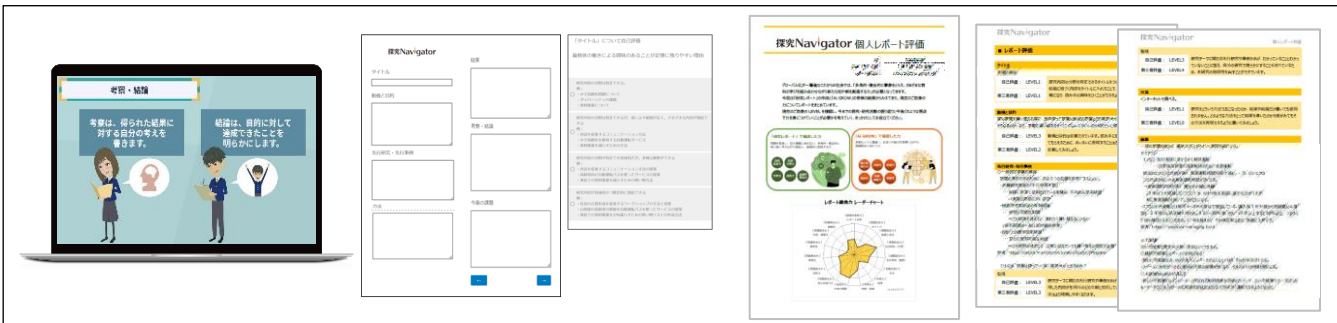
評価基準・負担

探究に必要な力の育成が課題。探究のルーブリックを現行プログラムに加えることで課題を解消し、非認知能力など生徒の内面的な成長を評価したい。

- ・ 民間の探究プログラムを活用しており、生徒は決まったテーマについて調べながらレポートを作成する活動を継続。
- ・ 夏期休暇の課題に「探究Navigator」を活用し、探究レポートの書き方・深め方を付属の事前学習動画で自主学習。
- ・ アセスメントの結果、探究に必要な課題発見力や情報処理力、創造性に課題があると分かり、育成の難しさを痛感。
- ・ 探究レポートだけでなく小論文でも求められる「人に伝える文章」の書き方を、負担なく学ばせることができた。
- ・ 「Ai GROW」は探究による成長の確認だけでなく、生徒との有効なコミュニケーション・ツールとして面談で活用。

活用事例の概要

- **主な活用シーン**
総合的な探究の時間
自宅学習
- **対象生徒**
1・2年生



▲事前学習動画やレポート作成ツールを活用し、生徒自身で学習できる「探究Navigator」。フィードバックレポートでは、自身のレポート内容、自己評価、第三者評価に加え、評価項目ごとにアドバイスが記載され、レベルアップを目指す。

CASE6 美里町立美里中学校（美里町教育委員会）



探究の高度化

社会で必要な能力

評価基準・負担

リーダーシップの育成に力を入れているが、リーダーシップ力をはじめとする生徒の非認知能力がどれくらい伸びているのか、把握や評価ができていない。

- ・ 探究などを通してリーダーシップ力がどのように変容しているのか、その効果を検証するため「Ai GROW」を活用。
- ・ これまでも学校独自で相互評価を実施していたが、負担が大きかった。ツールで手間なく実現できた効果は大きい。
- ・ 教員は管理画面で生徒の強みや特性を把握し、エビデンスを基に「総合的な学習の時間」の指導やアプローチを工夫。
- ・ 三者面談の際、生徒の強みや探究での成長についてエピソードを交えながら個人レポートを介して保護者にも共有。
- ・ リーダーシップ力の育成によって、入学から卒業までどのように資質・能力が変容していくのか今後も測定を継続。

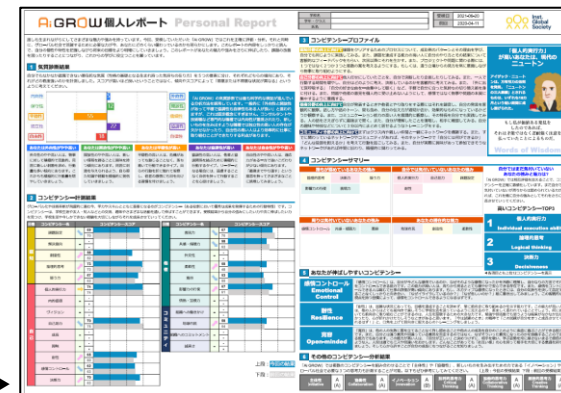
活用事例の概要

- **主な活用シーン**
総合的な学習の時間
ホームルーム
- **対象生徒**
1～3年生



◀ 「Ai GROW」受検の様子。総合的な学習の時間に校長・教頭が主体となりリーダーシップ講座を行うなど、注力した教育の効果が可視化された

保護者との面談でも活用したレポート。保護者との共通認識に活用▶



■ 探究的な学び支援補助金における活用場面

CASE7 大東文化大学第一高等学校



探究の高度化

社会に必要な能力

評価基準・負担

探究の授業を構築するなかで、2学期の授業内容の検討に苦慮していた。また、学校の方針として探究とキャリアを結び付ける方策を模索していた。

活用事例の概要

- **主な活用シーン**
総合的な探究の時間
キャリア教育
ホームルーム
課外活動の事前学習
自宅学習
- **対象生徒**
1・3年生

- ・ 特定の先生のマンパワーで進めていた探究。スライド作成など授業準備の負担を減らしながら内容の充実も図れた。
- ・ 生徒にとって各学習コンテンツや学習動画が新鮮で、どの生徒も興味をもちながら積極的に探究に取り組めた。
- ・ 特に「GROW Academy」の「プロトタイプ」の講座では、定着を図るワークに夢中で参加する姿が印象的だった。
- ・ 「Ai GROW」で得られた生徒個々の強みや成長に関する定量的なデータは、面談の他、進路指導にも活用。
- ・ 生徒も探究の取り組みを自身の強み・成長と進路とリンクさせて考えられるようになり、興味をもって取り組めた。



「GROW Academy」の各講座には学習指導案とワークシート▲▶が付属。授業準備の負担なく必要なフレームワークを習得できる

◀ 「プロトタイプ」のワークでペーパータワーに挑戦する生徒たち



■ 探究的な学び支援補助金における導入実績

全国85校 46146名の生徒に弊社の探究サービスを活用いただき、本補助事業を実施した。

都道府県	設置者名	区分	学校名	利用学年	利用生徒数
北海道	北海道教育委員会	公立	北海道帯広三条高等学校	1,2,3	704
		公立	北海道静内高等学校	1,3	324
		公立	北海道苫小牧南高等学校	1,2,3	469
	函館市教育委員会	公立	市立函館高等学校	1,2,3	669
	学校法人札幌静修学園	私立	札幌静修高等学校	1,2,3	805
青森県	青森県教育委員会	公立	青森県立青森高等学校	1,2	478
岩手県	岩手県教育委員会	公立	岩手県立黒沢尻北高等学校	1,2,3	649
		公立	岩手県立水沢高等学校	1,2,3	712
山形県	山形県教育委員会	公立	山形県立新庄北高等学校	1,2,3	392
福島県	学校法人福島成蹊学園	私立	福島成蹊高等学校	1,2,3	1030
茨城県	株式会社ウィザス	私立	第一学院高等学校 高萩本校	1,2,3	5732
群馬県	群馬県教育委員会	公立	群馬県立高崎高等学校	1,2,3	846
埼玉県	埼玉県教育委員会	公立	埼玉県立三郷高等学校	1,2,3	462
	川口市教育委員会	公立	川口市立高等学校	2	395
	美里町教育委員会	公立	美里町立美里中学校	1,2,3	258
千葉県	千葉県教育委員会	公立	千葉県立佐倉高等学校	1,2,3	120
		公立	千葉県立柏高等学校	1,2	359
	学校法人東京聖徳学園	私立	光英VERITAS中学校	1,2,3	335
		私立	光英VERITAS高等学校	1,2,3	366
東京都	東京都教育委員会	公立	東京都立大山高等学校	1,2	394
	国立大学法人お茶の水女子大学	国立	お茶の水女子大学附属高等学校	1,2,3	370
	学校法人十文字学園	私立	十文字高等学校	1,2,3	694

都道府県	設置者名	区分	学校名	利用学年	利用生徒数
東京都	学校法人根津育英会武蔵学園	私立	武蔵高等学校	1,2,3	510
	学校法人日本大学	私立	日本大学豊山女子中学校	1,2	250
	学校法人大東文化学園	私立	大東文化大学第一高等学校	1,3	614
神奈川県	神奈川県教育委員会	公立	神奈川県立柏陽高等学校	2	317
		公立	神奈川県立横浜国際高等学校	1	157
		公立	神奈川県立小田原高等学校	1,2	636
		公立	神奈川県立横須賀高等学校	2	277
	平塚市教育委員会	公立	平塚市立土沢中学校	1,2,3	143
	葉山町教育委員会	公立	葉山町立葉山中学校	1,2,3	498
	葉山町教育委員会	公立	葉山町立南郷中学校	1,2,3	325
	学校法人湘南学園	私立	湘南学園高等学校	1,2,3	516
富山県	富山県教育委員会	公立	富山県立大門高等学校	2	117
		公立	富山県立高岡南高等学校	1,2	318
		公立	富山県立富山中部高等学校	1,2	518
	学校法人片山学園	私立	片山学園高等学校	1,2	159
石川県	石川県教育委員会	公立	石川県立七尾高等学校	1,2,3	587
山梨県	山梨県教育委員会	公立	山梨県立笛吹高等学校	1,2,3	670
長野県	長野県教育委員会	公立	長野県飯田風越高等学校	1,2,3	601
静岡県	静岡県教育委員会	公立	静岡県立富士東高等学校	1,2,3	611
	沼津市教育委員会	公立	沼津市立沼津高等学校	1,2,3	600
		公立	沼津市立沼津高等学校中等部	1,2,3	240
愛知県	愛知県教育委員会	公立	愛知県立新川高等学校	1,2,3	944

■ 探究的な学び支援補助金における導入実績

全国85校 46146名の生徒に弊社の探究サービスを活用いただき、本補助事業を実施した。

都道府県	設置者名	区分	学校名	利用学年	利用生徒数
愛知県	学校法人高倉学園	私立	豊橋中央高等学校	1,2,3	864
	学校法人名古屋石田学園	私立	星城中学校	1,2,3	86
		私立	星城高等学校	1,2,3	1444
	学校法人愛知学院	私立	愛知中学校	1,2,3	525
		私立	愛知高等学校	1,2,3	443
滋賀県	滋賀県教育委員会	公立	滋賀県立東大津高等学校	2	357
		公立	滋賀県立大津商業高等学校	1,2,3	782
京都市	京都市教育委員会	公立	京都市立京都工学院高等学校	1,2,3	676
大阪府	大阪府教育委員会	公立	大阪府立登美丘高等学校	1,2,3	840
	茨木市教育委員会	公立	茨木市立養精中学校	1,2,3	702
兵庫県	株式会社ウィザス	私立	第一学院高等学校 養父本校	1,2,3	3825
奈良県	公立大学法人奈良県立大学	私立	奈良県立大学附属高等学校	1,2	390
和歌山県	学校法人和歌山信愛女学院	私立	和歌山信愛中学校	3	18
		私立	和歌山信愛高等学校	1	18
鳥取県	学校法人翔英学園	私立	米子北高等学校	2	32
岡山県	岡山県教育委員会	公立	岡山県立倉敷天城高等学校	1,2	281
	里庄町教育委員会	公立	里庄町立里庄中学校	1,2,3	310
	学校法人ノートルダム清心学園	私立	清心女子高等学校	1,2,3	120
広島県	広島県教育委員会	公立	広島県立吉田高等学校	3	100
	広島市教育委員会	公立	広島市立美鈴が丘高等学校	1,2,3	705
山口県	山口県教育委員会	公立	山口県立豊浦高等学校	1,2,3	539
		公立	山口県立大津緑洋高等学校 大津校舎	1,2,3	233

都道府県	設置者名	区分	学校名	利用学年	利用生徒数
山口県	山口県教育委員会	公立	山口県立宇部高等学校	1,2	478
		公立	山口県立田部高等学校	1,2	65
		公立	山口県立長府高等学校	1,2,3	384
	学校法人三田尻学園	私立	誠英高等学校	1,2,3	757
	学校法人香川学園	私立	宇部フロンティア大学付属香川高等学校	1	100
福岡県	北九州市教育委員会	公立	北九州市立高等学校	1,2,3	583
佐賀県	佐賀県教育委員会	公立	佐賀県立三養基高等学校	1,2,3	581
	学校法人東明館学園	私立	東明館高等学校	1.2.3	218
長崎県	長崎県教育委員会	公立	長崎県立諫早高等学校	1,2,3	818
		公立	長崎県立諫早高等学校附属中学校	1,2,3	361
	学校法人活水学院	私立	活水中学校	1,2,3	60
		私立	活水高等学校	1,2,3	338
熊本県	熊本県教育委員会	公立	熊本県立熊本西高等学校	2	262
		公立	熊本県立宇土中学校	3	79
宮崎県	宮崎県教育委員会	公立	宮崎県立宮崎北高等学校	1,2,3	929
		公立	宮崎県立五ヶ瀬中等教育学校 中学部	3	39
	学校法人延岡学園	私立	延岡学園高等学校	1,2	413
鹿児島県	学校法人日章学園	私立	鹿児島育英館高等学校	1	24
沖縄県	学校法人昭和薬科大学	私立	昭和薬科大学附属高等学校	2	196

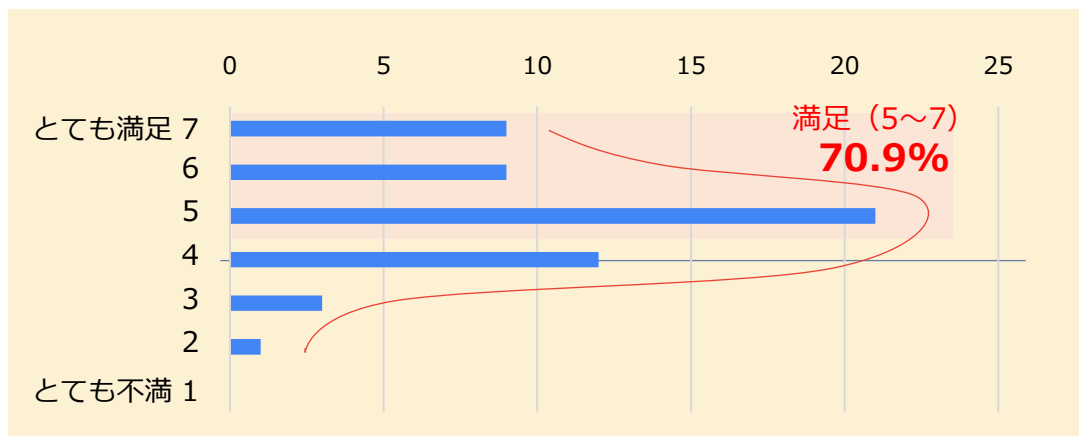
■探究学習等サービス活用による成果

申請校の先生方にご協力いただき「探究的な学び支援補助金2023」に関するアンケートを実施。

- **満足度の聴取では70.9%の先生が「満足」と回答。高い満足度を得られた。**
- **学校によって多様な課題・導入目的とともに制約がある中、サービスによる効果を十分に実感いただけた。**

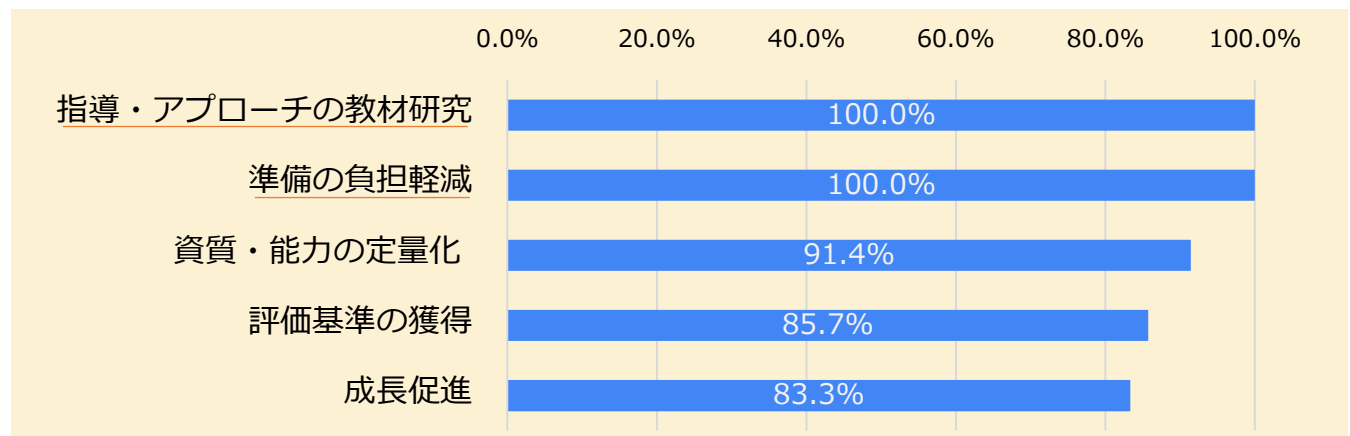
■満足度

有効回答数：55件



■導入目的 TOP 5 (複数選択可)

有効回答数：56件



アンケート実施概要

- アンケート対象：申請校85校の先生
- 有効回答数：60件（回答率 70.5%）
- 実施時期：2023年12月5日～20日
- 実施方法：Google Forms（メール依頼）
- アンケート項目：
 - ・学校における探究学習の課題（自由記述）
 - ・指導上の課題
 - ・プログラムの課題
 - ・評価における課題
 - ・導入目的（選択式）
 - ・利用効果（選択式）
 - ・取り組みやすさ
 - ・生徒にとっての難易度
 - ・本事業への要望（自由記述）
 - ・満足度
 - ・今後の継続意向
 - ・ご利用の感想（自由記述）
 - ・サービスへの要望（自由記述）

■探究学習等サービス活用による成果

社会実装 シミュレーション型プログラムの効果 ①コンピテンシー

■特に成長が期待される能力と、もたらされた効果

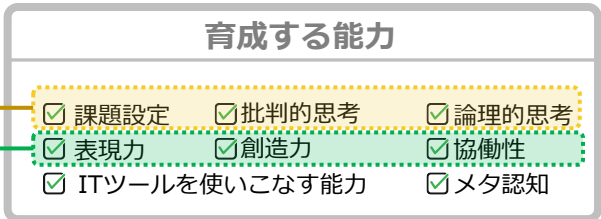
①教科横断・実社会の題材の学習・
ワークから**認知分野**の能力

②グループで1つの計画をまとめ上げる
ことで**他者分野**の能力

さらに、

③地域のSDGs 課題を扱うことで **コミュニティ分野の能力「地球市民※」**

※ 自分が住む地域や日本のことはもちろん、世界の一員として何ができるか考えられる能力（コンピテンシー）



多くの実施校で共通して
成長効果が認められたコンピテンシー

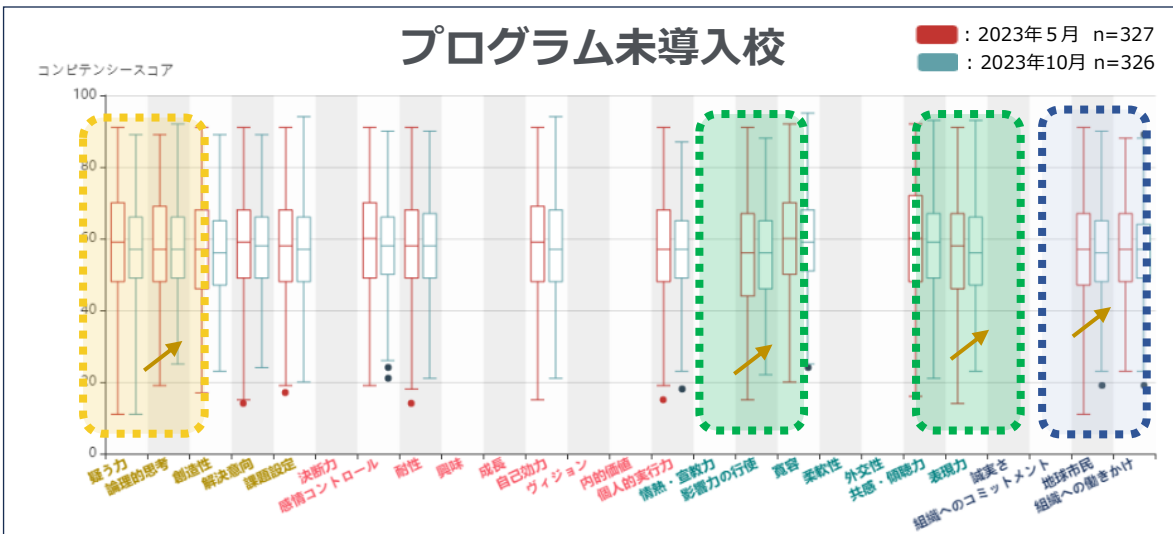
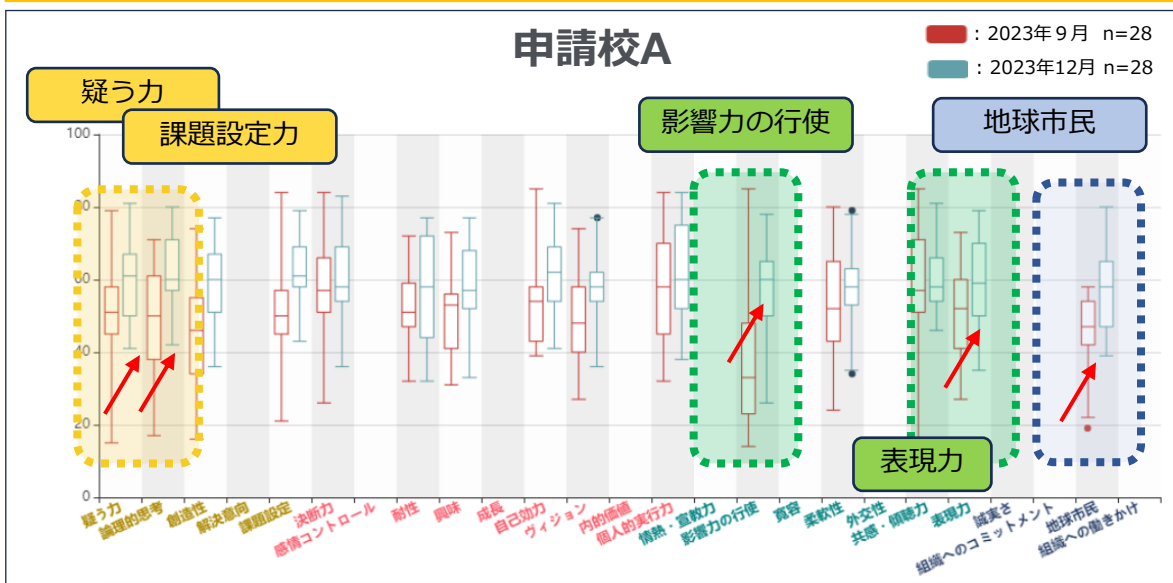
認知分野のコンピテンシー
疑う力 課題設定力

他者分野のコンピテンシー
影響力の行使 表現力

コミュニティ分野のコンピテンシー
地球市民

※弊社のアセスメント「Ai GROW」の計測結果より

■成長特色が顕著に出た申請校Aと非申請校の成長比較



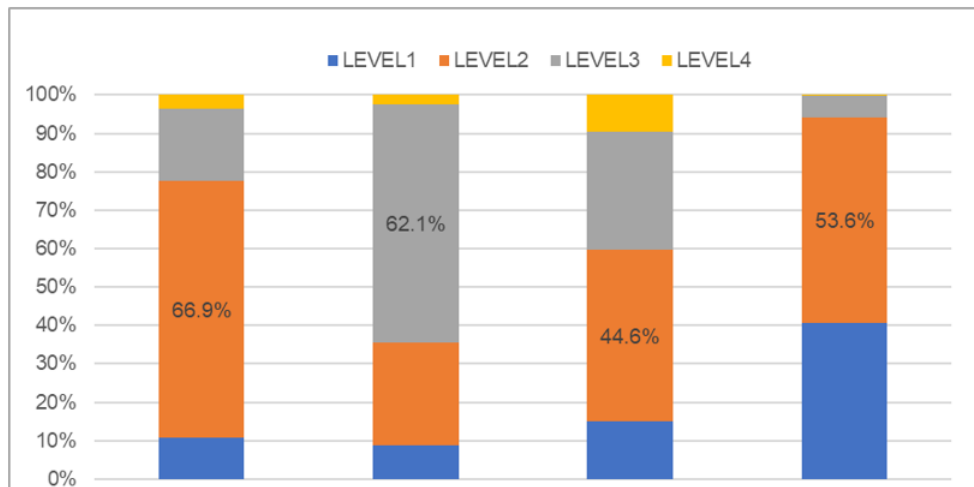
■探究学習等サービス活用による成果

社会実装 シミュレーション型プログラムの効果 ②数理科学的なものの見方・考え方

■ 事象を多角的に捉え、数理科学的な視点の成長を計測

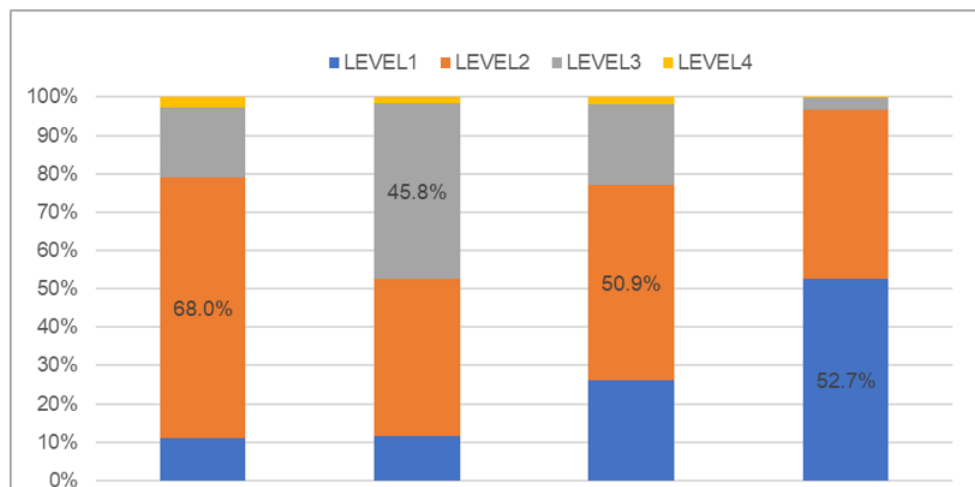
- ・ 数理科学的なものの見方や考え方に関するスキル（=自律的探究力）の定着を測定。今後の方針の参考データとして活用いただいた。
- ・ 全申請校の集計データの提供によって学校間の横比較が可能に。他校との比較から学校の探究の強みや課題を明確に把握できた。
- ・ 学校・学年・クラス単位の傾向把握だけでなく、生徒別の「探究力」の解像度が上がったとの声もあった。

■ 評価項目（全4項目）のレベル SSH校 2023年12月時点 1,698名



	課題設定力	実験計画力	考察力	創造力
LEVEL4	3.7%	2.4%	9.5%	0.2%
LEVEL3	18.6%	62.1%	30.7%	5.5%
LEVEL2	66.9%	26.6%	44.6%	53.6%
LEVEL1	10.8%	8.8%	15.1%	40.7%

■ 評価項目（全4項目）のレベル SSH校以外 2023年12月時点 579名



	課題設定力	実験計画力	考察力	創造力
LEVEL4	2.8%	1.6%	1.7%	0.2%
LEVEL3	18.1%	45.8%	21.2%	3.1%
LEVEL2	68.0%	41.1%	50.9%	44.0%
LEVEL1	11.1%	11.6%	26.1%	52.7%

※弊社のアセスメント「数理探究アセスメント」の計測結果より

■ サービスを活用するにあたっての課題とその改善策

<サービスの主な課題> - アンケートおよび申請校の先生への取材により

社会実装

シミュレーション型 プログラム

GROW Academy グロアカデミー 含む

<主な課題・先生の声>

- ・コンテンツが豊富で約4カ月という限られた中でプログラムを最後まで使い切れなかった。
- ・探究の授業中の指導負担は減ったが、年間の授業計画を立てる際に役立つ機能がほしい。
- ・プログラムやデータ分析パートなどのタイトルが一見難しそうで、活用前に不安に感じた。

<改善策> 活用できる授業数や課題に応じた導入&活用ガイドの作成

アセスメント

A:GROW

<主な課題・先生の声>

- ・夏休み明けに加えて行事もあって受検時間をなかなか確保できず、計測が後ろ倒しになった。
- ・受検実施前の限られた期間に、受検の意義を生徒にしっかりと理解させることが難しかった。
- ・フィードバックの時間までなかなか取れず、データの活用にはまだ課題が残る。

<改善策> 事前指導動画と振り返り手順書の作成。ゲーミフィケーション要素の導入

アセスメント

数理探究 アセスメント

<主な課題・先生の声>

- ・設問などアセスメントの内容は良いが、フィードバック面にやや物足りなさを感じた。
- ・フィードバックの時間までなかなか取れないことが課題となっている。
- ・アセスメントによって明らかになった課題を解消するための指導まで検討できなかった。

<改善策> レポート・解説書の充実と結果をセルフチェックできる仕組みの開発

■ サービスを活用した児童・生徒・教職員等のコメント感想等

<サービスの主な課題> - アンケートおよび申請校の先生への取材により



探究が表面的な
「調べ学習」にとどまり
精度を上げられない

・普通科コースの生徒に仕事やビジネスを体験する学びを提供したくてプログラムの導入を決めました。プログラムで学んだ視点・考え方は、2年生からの個人テーマでの研究にも生かされる内容だったと思います。（公立 高校）

・学校で採用している既存の探究プログラムでは、提供されるテーマの調べ学習にとどまってしまう。探究で育みたい能力が伸びているかを確認し、深い探究をさせるために今回のツールを活用しました。小論文などでより良い表現をするための指針や学びにもなったようです。（私立 高校）

・生徒の到達点が不明瞭のまま、不慣れな教員がスライドなどを準備し進行せざるを得ないのが探究の指導上の課題。今回は実際にコンテンツを試すことができ、教員の負担を軽減しながら、深い学びを提供することができた。（私立 高校）



STEAM教育等で
学んだ知識を
社会で必要な能力として
落とし込めていない

・教育活動での総合的な力を確認するため、アセスメントを受検させました。受検中は、社会貢献性を問う問題に生徒が深く考えながら回答している様子が見られた。授業アンケートなどといった生徒の意識調査だけに頼らず、これからも客観的かつ定量的に成長や課題を把握できるアセスメントを活用しながら生徒の探究力の成長を支えていきたいです。（国立 高校）

・探究で身に付けさせたい資質・能力、社会に必要な資質・能力がまだ一般化されていないと感じます。そのため、教員ごとの知識や指導スキル、探究に見出す意義、価値観の違いが探究の指導や探究による生徒の成長に大きな影響を及ぼします。民間の探究サービスや教材も、教員に求めるスキルや負担がまだまだ大きいように感じます。（私立 高校）



探究型学習の
評価の負担が大きく
その評価基準も
定まっていない

・「主体的に学習に取り組む態度」や「思考・判断・表現力」をどのように見取り、評価するかが大きな課題でした。非認知能力の定量的な把握と分析が実現し、探究の教育効果や生徒の成長を視覚化できました。（公立 高校）

・今まで「やる」「完成させる」がゴールで、評価は自己評価のみでした。客観的かつ定量的な探究の評価の必要性について教職員の理解が促進されただけでなく、各教職員の特色を生かしつつ、共通のゴールに向かうための共通言語を得られたと思います。（公立 高校）

・生徒が探究の価値を実感できるような目標・評価の設定を目指しています。「教師の勘」のようなものが可視化されたことで、生徒に合わせたより効果的なアプローチを実現できそうです。（公立 高校）

■ サービスを活用した児童・生徒・教職員等のコメント感想等

■ 「探究的な学び支援補助金」事業、経済産業省や国の教育支援施策について



- ・ 今回の補助金で思い切って新しいチャレンジができました。ありがとうございました。（公立 高校）
- ・ 教育サービスに関わる学校や家庭の負担が増大する中、気になるサービスのトライアル機会を得られたことは、非常にありがたいです。（私立 高校）
- ・ 探究的な学びをどう評価するか、現在さまざまところで議論されています。この補助金があることで、それらの活動の助けになりました。このような事業はぜひこれからも進めてください。（公立 高校）

1. 単年度の支援では準備時間が不足。予算捻出に向けた調整や効果検証のためにも、継続的な補助を希望する声が多数

- ・ 単年度の支援の制度ですが、できれば2年以上の継続した補助を申請できるようにしていただけると、より効果のある検証が可能だと思います。（公立 高校）
- ・ 継続的な実証によって現場の先生たちの納得感が得られるようになります。ぜひとも中長期的な支援の実施もご検討いただきたいです。（公立 高校）

2. サービス一斉導入だけでなく、生徒個別の探究テーマや活動へのサポートの希望も

- ・ 探究学習では生徒個人のアクションの部分にとにかくお金がかかります。個別の学びに対しても、補助の仕組みがあると助かります。（私立 中高一貫校）
- ・ 学校教員で網羅できないテーマに取り組む生徒をサポートできる仕組みがほしい。（私立 中高一貫校）
- ・ 学校現場で探究的な学びを指導することの難しさ。補助金制度だけでなく、国から各学校への何らかの継続的支援があってもよいのではないかと。（私立 高校）

本補助事業の予算化にご尽力くださった経済産業省の皆さま、事業期間中ご支援くださった事務局ご担当者の皆さまにこの場をお借りして御礼申し上げます。最後に、数多くある探究学習サービスの中から弊社の「社会実装シミュレーション型プログラム」をお選びいただき、本補助事業にご協力くださった全申請校の先生方とその先にいらっしゃる生徒の皆さまに、改めて心から御礼申し上げます（IGS株式会社 一同）

人を幸せにする評価と教育で、幸せを作る人、をつくる。



社名	Institution for a Global Society 株式会社	オフィス	東京都渋谷区恵比寿南 1-11-2 4階
設立	2010年5月	従業員数	52名 (2023年6月末日現在)
代表	福原正大 (代表取締役社長)	上場市場	グロース市場 (2021年12月 東証マザーズに上場)
資本金	96百万円 (2023年9月末日現在)		



代表取締役 福原 正大
Masahiro FUKUHARA

慶應義塾大学卒業後、東京銀行（現：三菱UFJ銀行）に入行。フランスのビジネススクール INSEAD（欧州経営大学院）でMBA、グランゼコールHEC（パリ）で国際金融の修士号を最優秀賞で取得。筑波大学で博士号取得。2000年世界最大の資産運用会社パークレイズ・グローバル・インベスターズ入社。35歳にして最年少マネージングダイレクター、日本法人取締役に就任。2010年に、「人を幸せにする評価で、幸せをつくる人をつくる」ことをビジョンにIGSを設立。主な著書に『ハーバード、オックスフォード…世界のトップスクールが実践する考える力の磨き方』（大和書房）、『AI×ビッグデータが「人事」を変える』（朝日新聞出版社）、『日本企業のポテンシャルを解き放つ——DX×3P経営』（英治出版、2022年1月11日刊行）など著書多数。慶應義塾大学経済学部特任教授を兼任。米日財団 Scott M. Johnson Fellow。

Services

AiGROW 数理探究アセスメント 探究Navigator

社会実装 シミュレーション型プログラム **GROW Academy** グローアカデミー **e-Spire**

お問い合わせ・資料請求、各サービスの詳細

☎ **03-6447-7151** (平日 10:00~18:00)

✉ **edtech@i-globalsociety.com**

